

商学部における特色ある学部教育の補助
「学部授業への授業特別協力者(ゲストスピーカー)依頼」 報告書

テーマ	ERPとSAPの最新動向					
科目名	会計情報システム論					
担当教員	櫻井 康弘					
実施日	2025年7月15日(火)	時限	2	時限目	実施教室	8104 教室

実施趣旨（目的）

ERP（Enterprise Resource Planning）について多くの企業に導入実績のある大手ベンダーの一つであるSAPジャパン株式会社から講師を招き、ERPとはなにか、SAP社が目指しているERPとはなにか、ERPの導入方法論についてご講演いただき、わが国におけるERP導入の現状や課題について理解を深めることを目的とする。

実施結果

ERP（Enterprise Resource Planning）システムの世界的大手ベンダーの一つであるSAPジャパン株式会社からシニアビジネスコンサルタントの松原寛樹氏をゲストスピーカーにお招きし、「ERPとSAPの最新動向」というテーマで講演をいただいた。

ERPシステムは、統合基幹業務システムなどと呼ばれ、経営資源を有効活用するために基幹業務を統合的に管理し、経営の全体最適を図るための情報システムである。ERPシステムはわが国では1990年代に大手企業を中心に導入が始まり、SAP社では国内約3,500社の導入実績がある。そのうち80%は年商1000億円未満の中堅・中小企業で利用されていて、近年ではそれら企業への導入が増えているとの説明があった。今後、社会に出ていく学生にとってERPシステムは身近な存在になることを多くの学生が感じたようである。ERPシステムの特長や機能の説明を通じてそれが経営にどのように貢献しうるのか理解が進んだようである。日本企業では企業固有の業務プロセスを重視してシステム構築する傾向があり、それが高い導入・運用コストやシステム改修の壁となってきたという問題点を指摘し、経営環境の変化に対応するためにはシステムの「標準化」ということが鍵となることが示された。

最後に、松原氏から会計の知識と情報システム関連の知識を併せ持つ有為な人材になってほしいとのエールが履修者に送られた。松原氏は本会計学科の出身で大手メーカー、コンサルタント企業などで活躍されてきて多様なキャリアをお持ちで、授業後には履修者のキャリアに関する相談にも応じて頂いた。ERPシステムは本授業で学習した統合型の会計情報システムを包含する概念であり、授業後に寄せられたコメントなどから履修者にとって企業情報システムの現状と課題について理解を深める大変有意義な講演となったことは間違いがないと思われる。

